

声の音楽についての理論的実践的研究

永原 恵三 / NAGAHARA, Keizo

文教育学部芸術・表現行動学科

■専門分野 音楽学、合唱指揮、声楽

■キーワード 合唱、発声法、カトリック教会の音楽

連絡先

nagahara.keizo@ocha.ac.jp

研究内容

■概要（背景・目的・内容）

- 1) 合唱という音楽行動についての美学・哲学的な研究成果であり、日本の 20 世紀を代表する作曲家である柴田南雄の合唱作品群（シアター・ピース）の研究書である『合唱の思考—柴田南雄論の試み』（春秋社）を出版した。
- 2) 合唱指揮者として、合唱団「コール淡水・東京」を指揮し、合唱における発声法と思考とを実践的に研究している。日本声楽発声学会創立 50 周年記念演奏会において、柴田南雄作曲によるシアター・ピースの大曲《宇宙について》をシュッツ合唱団の淡野弓子氏らと合同で演奏・指揮をした。また、次郎丸智希作曲《「土佐日記」による男声合唱とピアノのための前奏曲集》を初演した。
- 3) カトリック教会の音楽を民族音楽学の視点から儀式と音楽との関わりについて研究している。
- 4) 声楽家として、林光、武満徹の歌曲の演奏会を開いた。

■応用・将来展望

2012 年度に『合唱の思考 柴田南雄論の試み』（春秋社）を刊行し、これは柴田南雄の研究書として唯一であり、合唱から人間の共同存在を考える書である。

2013 年度には日本声楽発声学会での講演に基づいた学会誌上での執筆、さらに音声生理学者と声楽家との共同研究で声楽の発声法と歌唱法との研究をした。

2014 年度は柴田南雄のシアター・ピースの大曲《宇宙について》をシュッツ合唱団の淡野弓子氏らと合同でコール淡水・東京を演奏・指揮をして好評を得た。

2015 年度は次郎丸智希作曲の《「土佐日記」による男声合唱とピアノのための前奏曲集》を初演し、合唱音楽の新たな地平を模索している。音声生理学者や声楽家との共同研究を継続し、国際声楽指導者会議への出席と発表を計画する。また、カトリックのミサを民族音楽学の視点から研究するとともに、ICTM（国際伝統音楽学会）でのジェンダー部会を見据えて合唱における性差の研究をする予定である。また、『合唱の思考』の英訳を予定している。

■活動実績

東洋音楽学会理事副会長
民族芸術学会理事
日本声楽発声学会会員

主要研究成果

- ・『合唱の思考—柴田南雄論の試み』（春秋社）
- ・次郎丸智希作曲《男声合唱とピアノのための「百人一首」》（初演）
- ・柴田南雄作曲《宇宙について》指揮（日本声楽発声学会創立 50 周年記念）
- ・次郎丸智希作曲《「土佐日記」による男声合唱とピアノのための前奏曲集》（初演）